

第9回 ごみ処理恵庭モデル検討会(議事録)

日 時:令和4年10月27日(木)16:30~18:30

場 所:市民会館2階 視聴覚室

出席者:10名 【会 長】中尾 文子
【委 員】菅原 伸治・河野 恵美・大嶋 亮馬
平井 梓・石上 一美・槇 愛美

欠席者:3名 【副会長】吉田 英樹
【委 員】小林 貴・落合 信也

事務局側:中山 真(廃棄物管理課長)・田中 徹(同主幹)
谷村 直宏(同主査)・水野 光代(同主査)・石丸 直稔(同主査)・牧野 有紘(同主事)

1. 開 会
2. 挨拶(会長)
3. 第8回ごみ処理恵庭モデル検討会の振り返り
4. 議 事
(1)
5. その他
(事務局より報告事項3点)
6. 閉 会

～議事要旨～

5 議事

1. ごみ処理恵庭モデル提言(案)について

～事務局より説明(資料2「ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言(案)」)～

会 長:本日は構成等大きな部分を固めていければと思います。また、内容についてそれぞれ肉付けされイメージも一新されました。こちらの提言(案)について、意見がある方はいらっしゃいますか。

委 員 A:全体的にすごく良くなったと思います。ただ、逆にわかりにくくなったところもあるので、そういった部分について議論ができればと思います。私の意見は以下のとおりです。

- ・p1ごみ処理恵庭モデルとは何かというところをもう少しわかりやすく。
→図だけで表現するのは限界がある。特性をもう少し膨らませる。「はじめに」の「ごみ処理のいまを知ること」の部分と関連性があってもよい。
- ・p2フロー図について図だけではなく、もう少し概要説明を補足すること。
- ・p3からの現状認識について、ごみ量の推移、アンケートについて説明がなされている、ただ、課題・あるべき姿については重要な部分でもあるのでもう少し内容について深堀してもよいのでは。
- ・p8 以降について中身の部分については議論が必要であると思うが、全体的には見やすくまとまっていると感じる。

会 長:全体についてご意見ありがとうございます。それでは改めて、「はじめに」の部分から1ページずつ確認をしながら意見を出して行ってほしいと思います。

委 員 A:4つの項目で全体的にはわかりやすくなっていると思います。ただ、項目3の「ごみ処理恵庭モデルの確立」についてはもう少し絞った方がよいのではないかと感じました。手数料の部分について触れられていますが、「はじめに」のページであえて載せる意図があれば教えてほしいです。

会 長:ありがとうございます。他には何かご意見ありますか。

委 員 B:全体を通して読み進めたい内容に改善されていると思います。細かい部分ですが、表記について「モノ」がカタカナで、「ごみ」がひらがなで表記されていますが、ここは統一された方がよ

いのではと感じました。

会長:ありがとうございます。「はじめに」のところでは、「ごみ処理恵庭モデルとは何か」ということに触れられないまま、コストや手数料等の課題について記載がされているので、あえてここでは課題についてではなく、恵庭市の特長(いいところ)と「ごみ処理恵庭モデルとは何か」という部分について記載された方が良いのかなと思いました。

委員 C:項目2「恵庭市のごみ処理の特長」の部分で比較対象があれば、より理解が深まるのではないかと思います。恵庭市は全道でも先駆けて戸別収集を実施した自治体でもあります。また、焼却施設にしても広域(複数の自治体)で管理しながら処理をしている自治体が多い中、恵庭市は単独で所有している点など、そういった点がごみ処理恵庭モデルに繋がっているのかなという想いがあります。

会長:恵庭市の特長をもっと際立たせるために比較対象という手法は良いですね。自分たちの市の中で、焼却処理やあわせ産廃等完結している部分やそういった姿勢をもっとPRしていいところなのではないかと思います。

委員 D:私も見やすくなり良くなったなと思います。項目2「ごみ処理の特長」の中の「燃えるごみ」は「燃やせるごみ」ではないかと思います。「燃えるごみ」「燃えないごみ」と言ってしまうがちですが、私も子どもたちに教えるときには「燃える」「燃えない」ではなく、「燃やしてもいいか」「燃やせないか」だから、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」なんだよ、と伝えています。また、以前もお話した部分にはなりますが、全体を通して読むと「恵庭市のため」にやらなければいけないという印象を持ってしまう。「自分のため」にやった上で結果的にまちがきれいになるということが「自分事」として捉えやすいということなのではないかと思います。恵庭市は転勤でいらっしゃる方も多く、「恵庭のためにやるなら、ずっと住むわけではないからやらなくていいかな」という風に思ってしまうので、その部分の表現についても考えていきたいと思います。

委員 E:学生の立場で、かつ転勤族ではないですが、一時的に恵庭に住んでいる立場からいうと、やはり「適当にごみを捨てても、何年かしたら恵庭からいなくなるからいいかな」というイメージを持つ方は多いです。しかし、施設見学でも目の当たりにしたように、ごみ処理場はこれくらい埋まっていて、リサイクルセンターではこういった状況で働いている人がいる、というようなことを自分の目で見て体験すると、意識が変わり行動変容に繋がったという学生もいるので、「自分で体験をする」ということは非常に重要であると感じました。

委員 A:構成の部分で言うと、現在は「未来への想い」が冒頭と最後に記載されていますが、「検討会の想い」→「恵庭の特長を知ること・未来に向けてごみ処理のいまを知ること」→「その実現による恵庭モデルの確立」という構成ではいかがでしょうか。「未来へ紡ぐ想いを提言書に込めた」ということを冒頭で謳っているのですが、あえて最後でまた「この提言書が生かされることを切に希望

します」という文言は入れなくてもよいかな、と感じました。

事務局:様々なご意見ありがとうございます。今回の提言(案)は今までの検討会での議論や意見を踏まえた上で、案として作成したことになります。質問のあった手数料やコストの部分に触れている意図としては、以前の検討会の中で「サービスの向上」「コストの削減」「分別の徹底」をキーワードとして盛り込んでほしいとのご意見があり、反映したことになります。「コスト」に関することは「誰が見ても読みやすい」という観点から考えた時に、どのように盛り込むか悩んだ部分で、自分ごととしても捉えることができるよう、自分の分別行動が施設やコストに影響するといった繋がりを表現しました。また、「ごみ処理恵庭モデルとは何か」という部分ですが、先ほどご意見があったとおり、戸別収集を先駆けて行っていること、燃やせるごみと生ごみを分別していること、市単独で焼却施設を持っていることなど自治体が行うごみ処理としてはかなり特長がある市だと思います。住んでいる我々からすると当たり前のように感じている部分は、他の自治体と比べると、先進的で恵庭市の特長に驚かれます。ごみ処理恵庭モデルとは、今のごみ処理体制の特徴を知り、良いところはもっとよく、課題は解決していくことで、確立されていくものと考えています。表現については検討したいと思います。項目に関しては、3つの項目となるよう集約し、2番目の項目には恵庭市の特長が分かりやすくなるよう比較対象を入れたいと思います。また、モノ、ごみに関しては、他にご意見がなければ平仮名で統一したいと思います。他のご意見に関しましても、可能な限り次の修正案に反映させたいので、委員の皆様には校正をお願いしたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

会長:では、続いて「目次」(全体の構成)について何かご意見はございますか。

委員 B:4行目現状認識の(肯定的評価)はつけなくてもよいのではないかと感じます。

委員 A:誰にでも読みやすいようにという意味では、テーマの部分はローマ字ではなく、カタカナが良いと思います。また、大項目3「ごみ処理恵庭モデルの現状認識」というタイトルについてですが、内容が「現状・課題・あるべき姿・基本的な考え方・テーマ間の関わり」と多岐に渡っているので、現状認識という表現ではなく、もっと広い意味の表現でもよいのではないかと思います。

会長:いまのご指摘からですが、現状の構成では「ごみ処理恵庭モデルとは」→「ごみ排出からごみ処理まで」→「現状認識」となっていますが、「ごみ処理恵庭モデルとは」→「確立に向かって(現状・課題・あるべき姿・考え方)」というように続いていく方が見やすいのかなと思います。続いてp1「I. ごみ処理恵庭モデルとは」に対してのご意見をお伺いします。

委員 A:ページ下部の「恵庭市の特性」についてはもう少し検討していただきたいと思っています。現状4つの項目が記載されていますが、特性とその上の恵庭モデルの特長の部分にあまり関連性が感じられず、特性が浮いている印象を受けます。「例えば、コンパクトシティ・人口増加のまち」だから「経費がかかる戸別収集が可能」なのか、「豊かな自然を感じるまち」だから「市民の

環境意識が高く、高い分別意識に繋がっている」のか等、特長と特性に関連性を持たせた方が
いいと思います。

委員 C:ひとつの案ですが、例えばこの特性の部分は、農業者が多い・工業団地もある・一般市民の生活など他の市とは違った産業形態・暮らし(今までの歴史)があった上で、「恵庭市のごみ処理は
いまこうなっている」という方がわかりやすいのではないかと思います。以前の議論でも産業
廃棄物についての議論がありました。他市町村へ持っていき自治体が大半の中、恵庭市では
自分たちで処分し完結させることが出来ています。そういった今までの経緯(歴史)がいまのモ
デルとなっていて、今後のモデルに繋がっていくという説明があればよいのではないかと考え
ます。市民・事業者・市が協働して、これまでのごみ処理を行ってきたということを表してい
きたいと思います。

会長:ありがとうございます。他にこちらの図について何かご意見はありますか。なお、「産業廃棄物
の処理」となっていますが、それだけだと理解しづらいので、もう少し説明を加えてもいいの
かなと感じます。

委員 D:「就労支援型のリサイクル施設」についても、これだけ見ると市民の方は「なぜこれがここにあ
るのだろう」となってしまうと思います。いまの状況やこれからの恵庭の特長とするべく、あ
えて載せていることがもう少しわかるような表現になるといいと思います。

委員 B:図のサイズは少し小さくしてよいと思います。その分説明するスペースを取った方がよいと感
じます。現状、恵庭市は市民・事業者・市で話し合っ決めてきていて、そういった自治体も稀だ
と思います。今月、他の自治体のごみ処理についてのワークショップに参加しましたが、恵庭市
とは大きく違いました。生ごみと燃やせるごみを分けている自治体も道内ではほとんどないで
すし、その自治体は3R の推進は諦めて2R を促進するといったことも仰っていました。他の自
治体の状況を知ることで、恵庭の特長もより見えてくる部分もあると思います。今回の検討会
だけではなく、今まで協働での話し合いが行われてきて、その結果がいまのごみ処理に繋が
っています。そして今後さらに良くしていくために「前に進もうとしている」ということが表現で
きればいいのかと思います。生ごみと燃やせるごみの分別は環境においても非常にいいこと
ではあるのですが、転入者からすると単純に「めんどくさい」という気持ちになると思
います。それをやる意味をしっかりと理解していただくことが大切ですし、恵庭に工場が多いのはなぜか
ということも特性として記載してもよいのではないかと思います。分別が他市と比べて細かい理
由がわかるといいなと感じました。

会長:p2「ごみ排出からごみ処理まで」は図としては完成系になると思いますので、p3～p5「ごみ処
理恵庭モデルの現状認識」で意見はございますか。

委員 A:検討会に参加していればわかるけれど、提言書を見た人にはわからないものの1つとしてこの

「合わせ産廃」があるかと思います。唐突に出てきている感が強いので、事業者の方であればわかるかと思いますが、市民にはわからない部分だと思います。産廃を受け入れる必要性や今後とも考えていかなければならないテーマであることを含めて、丁寧な説明が必要だと思います。

会 長:個人的に気になったのは、アンケートについてです。アンケート内容を抽出することはいいと思うのですが、内容が「戸別収集」と「合わせ産廃」だけでバランスが取れているのだろうかという点です。今一度この内容については事務局の方で精査していただきたいと思います。

委 員 B:ごみ処理のフロー図では、袋の色とリンクして見やすいと感じたのですが、そのあとのアンケートでは、青と緑のコントラストだと暗い印象なので、「合わせ産廃って良くないものなの?」と感じてしまいます。特にその前の「ごみ量の推移」~「戸別収集について」は明るい色使いなので、その差も相まって良くない印象という部分に繋がってしまう懸念があります。もう少し明るい色や見やすいコントラストを意識した方がいいと思います。

委 員 F:p5、p6の「ごみ処理恵庭モデルの課題」と「あるべき姿」の部分で項目ごとに色分けされて番号が振られていますが何か意図があるのでしょうか。

会 長:p5、p6の「課題」と「あるべき姿」の順番についても検討したいと思っています。「あるべき姿」が先にきて、「いま」と「あるべき姿」のギャップが課題になるのかなと感じています。

委 員 A:課題について、アンケートからのものなのか、今までの議論からなのか、市として感じている課題なのかがわかりません。唐突に課題が提示されている印象を受けます。

事 務 局:ご議論ありがとうございます。ご議論やご意見をいただいている内容を基に提言書を修正させていただきます。なお、何点か回答させていただきます。p1の図「恵庭市の特性」について、恵庭市のごみ処理の特徴と関連した特性の表現となるよう検討したいと思います。p2の図について、説明文の補足も併せて表現を検討いたします。また、アンケートについては、「戸別収集」と「合わせ産廃」を抽出しておりますが、他の項目からも肯定的な評価をピックアップできないか確認します。また、「合わせ産廃とは?」に関するところは配色も含めてわかりやすく表記できればと思います。現在の課題・あるべき姿の部分の表現については、番号や配色に意味を持たせていないので、別の表現方法も模索していきたいと思います。また、課題については、この方がよいのでは?という部分もご議論いただきたく、あるべき姿については提言書の後半の部分に沿うようなイメージで抽出していますが、委員の皆様の思い描く姿と共有できればと思っております。その点についても、ご意見いただければと考えております。

事 務 局:1点補足させていただきます。p1の図について、恵庭の特性に記載のある「コンパクトシティ&平坦なまち」というのは戸別収集が出来ている要因であると考えます。関連性についての表現は検討したいと思いますが、人口が減っていないまちだからこそ考えられるごみ処理や特性に

についても表現を考えていきたいと思います。

会 長：課題についてですが、「ごみ処理のいま」と「あるべき姿(検討会での議論)」ははっきりと分けた方がいいのではないかと思います。構成について、「あるべき姿」、「課題」以降は別の章立てでもよいのではないかと感じます。また、アンケートについては、肯定的評価だけでなく、課題やあるべき姿に関連するものについてもピックアップしてもよいのではないかと思います。市民の声については細かい部分になってしまうので、あえて載せなくてもよいのかなという気がします。

委 員 D：p6についてですが、基本的な考え方の各冒頭にある「ごみ処理恵庭モデルをもっとよくしていくためには」はそれぞれに入れるのではなく、タイトルの下に1行入れるなどした方がいいと思います。

委 員 B：「合わせ産廃」が市民に対して聞きなれない、よくわからない単語であるのと同様に「DX」についても説明が必要であると思います。

委 員 C：p5の課題について、各項目に(市)・(市民)等と役割が記載されていますが、結局は全て(協働)であるため、あえて記載する必要はないのではないかと思います。表現についても、より市民に伝わりやすいような表現に変えていけるといいかと思います。また、大項目毎に「ごみ処理恵庭モデル」と記載されていますが、最初の1つだけでよいのではないかと思います。

委 員 A：課題についても、「現状の」課題であることを表現したいです。市民へより伝わりやすい表現であれば、「今の悩み」くらいでもいいのかなと思います。

会 長：それであれば、課題の部分については「いま困っていること」を載せていくようなイメージでしょうか。そこから、後半部分に具体的な課題や考え方が記載されていくという流れでしょうか。

委 員 C：現状のごみ処理も、5年後、10年後はどうなるかわかりません。その中で、まずはいま抱えている問題を提起することが一番大切だと思います。

委 員 A：あるべき姿は後ろの個別テーマから拾ってきたのであれば、そのあとのテーマ毎の内容にリンクしていく方がよいのではないかと感じました。「テーマ毎のあるべき姿」としてリンクできれば読みやすいのかなと思いました。

委 員 B：課題・あるべき姿については番号を振らなくてもいいので、後に出てくるテーマとカラーリンクさせる方がわかりやすいかと思います。複数のテーマに絡むものも出てくるとは思いますが、複数の色をつければよいと思います。

委員 D:高齢者に見てもらおう際にこの色使いでいいのか、白抜きが見えにくくないかなども考える必要があります。

会長:p7以降はこれでいいのではと思います。また、p8以降についてもこのままで大丈夫だと思います。

事務局:ご議論ありがとうございます。委員の皆様からいただきましたご意見を反映させた提言書を1月中旬に送付しますので、校正についてよろしくお願いたします。

2. ごみ処理手数料について

～事務局より説明(資料3-1～3-4「ごみ処理量の見通し」)～

会長:ごみ処理量の数字の積算については、何か意見のある方はいらっしゃいますか。

(意見なし)

～事務局より説明(資料4「(改訂)一般廃棄物会計基準に基づいた費用及び単位廃棄物量当たりの処理原価(概算)」)～

会長:次回の検討会では、今後の手数料案が提示されるということでよろしいでしょうか。

事務局:次回の検討会では、容量換算の際に活用している6kg/40ℓを今年度実施しているごみ組成調査の速報が出る予定ですので、その数字を用いた処理原価と手数料負担割合を示したいと考えております。また、手数料負担割合が家庭系一般廃棄物1/3、事業系一般廃棄物2/3、産業廃棄物3/3の負担率が実態はどうなっているのか。令和2年度の手数料の算定方法について、委員の皆様と第10回検討会の際に検証し、第11回検討会時に手数料案をお示ししたいと考えております。

会長:次回の検討会時に、令和2年度の手数料改定の負担割合等の考え方についても示していただけるということでよろしいでしょうか。

事務局:そのとおりです。

会長:本日の段階で何か意見するという事は難しいかと思いますが、何かご意見がある方はいらっしゃいますか。また、事務局としてどういった観点から資料を確認してほしいか等あればお願いたします。

事務局：前回の検討会で環境省の一般廃棄物会計基準を基に処理原価を算定しましたが、算定の基礎となるごみ処理量が、実態と乖離しているため修正することとし、今回修正したものをお示しました。容量換算が前回の手数料改定時のものを使用しているため、また変わりますが、今現在の処理原価から手数料負担割合を算定した資料となっております。今後の手数料の議論の中で、手数料負担割合の考え方、近隣市町村の料金水準や市民の受容性を考慮するとどうなのか、一方で手数料負担割合が低いと税負担が大きくなること、処理原価では燃やせるごみの方が生ごみより安いのに手数料は生ごみの方が安いという実態や分別に関する施策的な考え方など、市民目線・事業者目線でご意見をいただければと考えております。

～事務局より説明(資料5「産業廃棄物について」)～

会長：次回の検討会で具体的な影響額を示せる部分について提示があるということですので、実質的な議論は次回になるかと思いますが、現段階で何かご意見がある方はいらっしゃいますか。

委員 C：本検討会ではどこまでを結論として出すのかということをお聞きしたいです。あくまでも将来的なごみ処理の在り方をどうしたらよいのかということを中心に今まで議論を行ってきた中で、産業廃棄物の受入の是非までを我々で結論付けるべきなのかという部分について見解をお聞きしたいと思います。例えば、本検討会ではなく、より専門的な機関で議論するべきだとも思いますし、産業廃棄物の受入の根拠をどこまで考えていいのかが疑問です。

事務局：あわせ産廃や産業廃棄物手数料の議論も唐突感があるかとは思いますが、一方で、本検討会で議論いただいているように、議会でもあわせ産廃に関する議論がなされています。その中で市民が参加している検討会の中でもあわせ産廃に関する意見を聞くべきとの議論がされておりますので、今回あわせ産廃について検討会の中で議論をいただきたいというところです。現在の手数料については、平成30年の廃棄物減量等推進審議会にて諮問・答申を受け、決定しているという経緯がございます。ですので、今回の提言で市民のごみ処理手数料が決まるわけではなく、廃棄物減量等推進審議会でも議論し、諮問するための参考材料という扱いとなります。また、この社会現象が激動の時代において、産業廃棄物手数料についても5年ごとの見直しでよいのか？ということについてもご議論いただきたいと思っております。

委員 A：お話しされていることはわかりませんが、難しいと感じています。産業廃棄物の受入の是非や手数料について、そこまで言及した議論をする必要が本検討会ではないのかなと感じます。あわせ産廃の重要性は理解しておりますので、今までの算定経緯や受入れの方向性についての提言という形でよいのではないかと思います。産業廃棄物手数料の金額についてなど細かい部分は廃棄物減量等推進審議会でも適正に議論していただきたいと思っております。

会長：私たち本検討会では、そういったあわせ産廃の是非についても言及してよいと認識しています。状況を認識した上で本検討会としてあわせ産廃を継続すべきなのか、また事業者の協力もあつ

て現在のごみ処理が成り立っているということも提言の中に盛り込んでいければと思っています。そしてその根拠となる資料を事務局の方で精査し、提示して下さっているという認識です。

委員 A:産業廃棄物手数料に関しては、事業者でもない私たちでは議論することが難しいと感じていますが、資料の根拠を基に提言の中に盛り込んでいければいいと思います。

会長:資料については、これ以上のものが必要ではない気もしますが、もし廃棄物減量等推進審議会等でどちらにせよ作成する予定であれば、ご提示いただきたいと思います。

事務局:数字が提示できればより考えやすいと思いますので、引き続き可能な数字・資料については提示したいと思います。その上で、ご議論いただければと思います。

委員 D:改めて確認ですが、本検討会ではどこまで求められているのでしょうか。実際に産業廃棄物を排出する当事者がいない中で産業廃棄物の受入の是非を結論として出していいのでしょうか。

事務局:事業者の立場として本検討会に参加いただいている委員の方もいらっしゃいますし、市の方でも収集運搬許可業者との意見交換も行っているところです。その中で、基本的に合わせ産廃は必要であるということを普段から耳にしております。ですので、例えば一定期間継続なのか、短期的に継続、その後長期的に縮小なのか、そういったご意見を提言に結び付けていければいいのかなと思っています。

委員 D:数字だけを持ってこの場でその判断を下すのは責任が取れません。

委員 A:現状と課題については理解しましたが、それを本検討会として判断することは難しいです。

会長:次回以降の検討会でも議論いたしますが、本検討会においてそういった事業系の廃棄物について議論を行うことに対して違和感はありません。確かに金額については中々難しい部分もあるかとは思いますが、「合わせ産廃をどうしていくのか」という議論は必要ではないかと思えます。事業者を対象としたアンケートも提言には盛り込まれております。

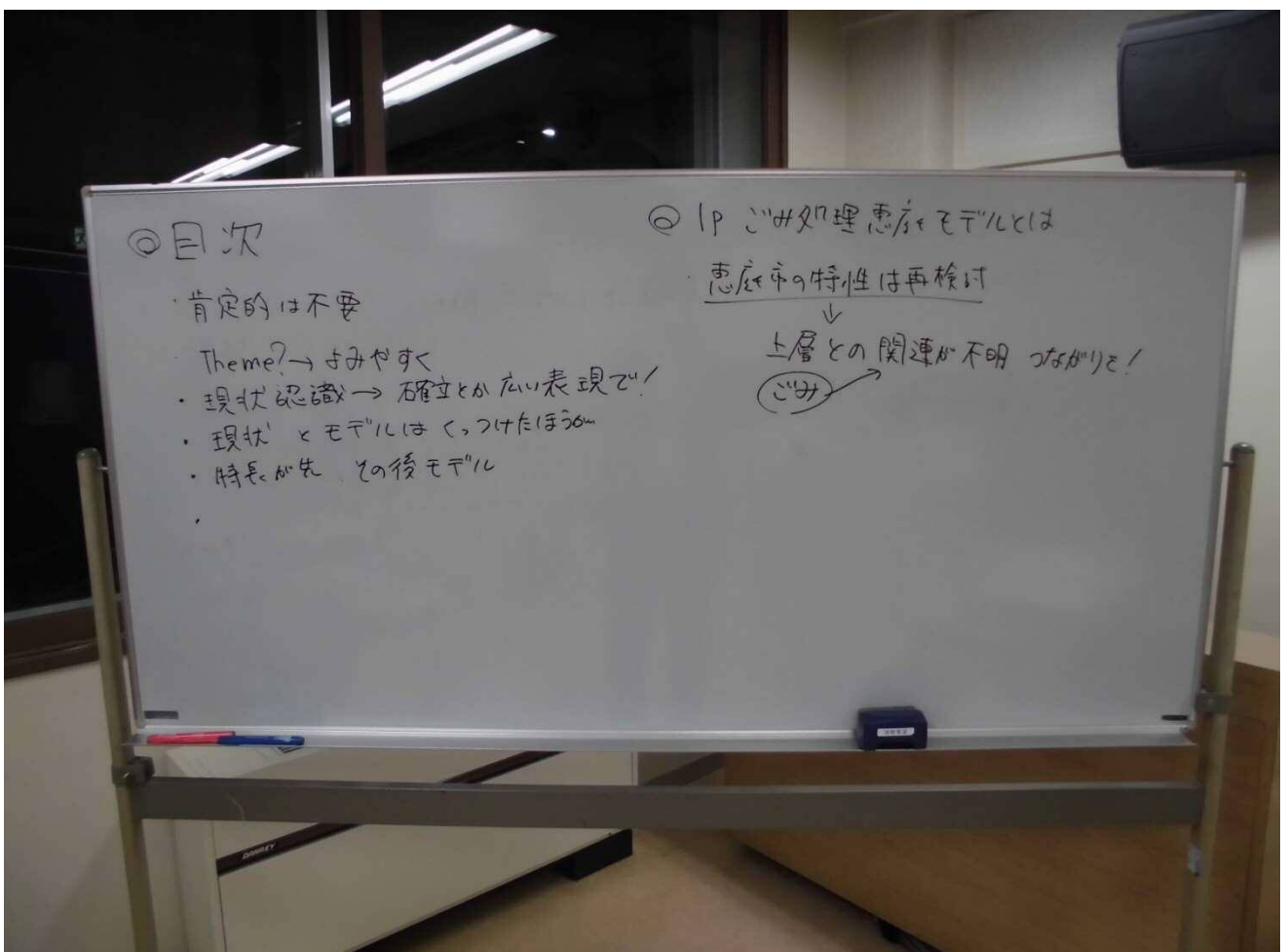
委員 A:合わせ産廃の是非については、数字等の資料を提示いただきながら、我々として可能な提言をしていくことが望ましいのではないのでしょうか。次回、事業者の委員も含め議論をしていきましょう。

3. その他について

～事務局より報告事項3点～

- ・第 10 回ごみ処理恵庭モデル検討会 12月8日(木)16:00~18:00 市民会会館2階視聴覚室にて開催予定。
 - ・11月中に今回の議論を基に提言(案)を修正するため、各委員へ校正を依頼。
 - ・現状第11回までを予定していたが、さらに1~2回検討会の追加開催を予定。年明けに第12回開催予定。
- 以上

【検討会の様子】



あひき窓 → P7 に関連づけを

↓
まとまりがない、一つではまとまらない、

◦ カーリンクさせる。項目番号は不要?

↓
ユニバーサルカー。誰にでも見やすく!

◎ 合わせ産廃の議論まで検討会で必要?

- ・ あり方の方針まではムズカシ。当事者の議論は? → アンケートがある
- ・ 金額までは検討はきびしい。